

北海道大学 医学部 形成外科
同門会・教室年報 2023

ANNUAL REPORT 2023

Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine, The University of Hokkaido at Sapporo



北海道大学 医学部 形成外科

同門会・教室年報 2023

ANNUAL REPORT 2023



同門会忘年会 (2023年12月2日 於 京王プラザホテル札幌)



教室員（2023年5月13日 於 北海道大学医学部百年記念館 前）

同門会会長挨拶

瞼の父を目指して (3)

野平 久仁彦

北海道大学医学部形成外科同門会 会長
蘇春堂形成外科 理事長



コロナ禍も開け、この出来事を通してパンデミックがどう始まり、どう収束していくかという一部始終を実体験できたのは、歴史の巡り合わせとはいえ貴重な経験でした。喉元を過ぎるとすぐに忘れてまた世の中がはしゃぎ出すかと思いきや、そうとはならず、今のところ落ち着いた時間が過ぎているようです。さて瞼の続きです。

皆さんもご経験があると思いますが、瞼の手術をたくさんしていると、千人に一人くらいの割合で手術による眼瞼痙攣の発症を見ることがあります。腱膜前転をした途端に、眉間にしわを寄せ、目が開けにくいことを訴えます。人によっては自律神経失調状態となり、気分が悪くなったり、動悸がしたり、精神不穏状態になることもあります。一度スイッチが入ると元に戻すことは難しく、対応によっては医療トラブルになります。私も2015年頃からその存在に気づき、浜松の松尾清先生を毎年訪ね、眼瞼痙攣に対する手術治療について多くを学んできました。しかしその理論を理解するのは難しく、手術法が一般的にも広く認知されているとは言えません。彼も論文を書いても査読できる人がいないので、なかなかacceptされないそうです。ミュラー筋の器械受容体の感度を下げる、advanced desensitization of mechanoreceptors in Müller's muscle (ADM) 手術にしても、この手術単独で改善する例は半数ほどで、その適応についても明確な指針がありません。これは教科書にないことをやっているためで、圧倒的にエビデンスがありません。ADM手術で改善しない場合には次にどういう手を打つか。治療法が開発されていない以上、自分で開発するしかありません。従来より眼輪筋切除という方法がありました。私ももう10年以上前に行っていましたが、筋肉を切除するために皮膚がしわしわになります。筋肉を切除しても痙攣が治ることはなく、これは破壊的な手術だと思ってその後はやっていませんでした。そこで手術的にBotox効果を出す方法はないか考えました。筋肉を切除せずに動きを止めるには、筋肉の線維と直行して筋肉の連続性を断つように多数箇所切断すればよいのではないかと。最初は重瞼線切開から上眼瞼皮下を筋肉直上で眼窩周囲まで広く剥離して、筋体を露出したあとにCO₂レーザーで切断しました。しかし皮膚が薄い人の場合、術後に皮膚のしわができたり凹凸が見えることがあります。そのため眼窩隔膜と筋肉の間を剥離し、眼輪筋裏面から筋肉を切断する方法に変えました。それでも多少凹凸は出ますが、皮下を剥離する方法よりは変形が少なくなります。

この分野の文献検索をしていたら、2023年に台湾の高雄大学形成外科のLai先生が同じような手術をしていることを知りました。実は2023年6月にマレーシアのパナンで開かれたOSAPSでお会いしましたが、あまりのタレントぶりに驚きました。アジアでも眼瞼の手術をたくさん行っている施設ですので、今後も交流を深めたいと思っています。

OSAPSはコロナ禍で開催が延びていましたが、数年前から主催者の事務局長であるLay Hooi Lim先生からSeiichi Ohmori Memorial Lectureを依頼されていました。演題はThe evolution of microsurgical blepharoplasty and periorbital rejuvenation (a personal experience)としました。講演では大浦先生から新富先生につながる北大形成外科と大森清一先生との関わりから始め、新富先生の創始になるmicro下の眼瞼の美容外科手術を紹介しました。眼瞼下垂手術や重瞼術、下眼瞼形成術、前額リフト、眼瞼痙攣の治療について動画をたくさん含めて45分の発表を行いました。発表後スタンディングオベーションが5分位続き、その熱気に驚くとともに、大変光栄に感じました。続きは次回にします。

教授挨拶

山本 有平

北海道大学医学部形成外科学教室 代表
北海道大学大学院医学研究院・医学部
形成外科学教室 主任教授



昨年より大きく若返った教員スタッフ陣容も、時と共に落ち着きを見せております。舟山恵美医学研究院准教授・病院診療教授はGM：General Managerとして、多岐にわたる教室員人事を調整され、前田 拓病院講師・診療准教授はAM：Assistant Managerとして専攻医・専門研修プログラムを統括され、石川耕資医学研究院助教・診療講師にはAMとして教室ホームページや同門会・教室年報の管理および編集をしっかりと行なって頂いています。そして、三浦隆洋病院助教は、大澤昌之病院客員教授の指導の下に頭蓋顎顔面外科の診療に日々奮闘し、治療成績も向上してきております。

大学院活動も非常に活発で、現在8名の学徒が、魅力的かつ興味深い基礎研究に精力的に邁進しております。また、新たに、松田識郁先生、徐 東経先生が立派な成績で日本形成外科学会認定専門医を取得しました。是非ともさらなる精進を重ね、より高く羽ばたいて下さい。さらに、組織の勢いに欠かせない若い力となる新入教室員は順調に増えており、ここ3年で12名の専攻医が仲間として加わり、形成外科研修に努め教室を盛り上げてくれております。皆の今後の活躍に大いに期待しております。

さて、本年は、当教室が全国学会を主催する機会はありませんでしたが、同門から輩出された教授方が、それぞれの地で有意義な学会を開催されました。6月には、福島医科大学形成外科 小山明彦教授が第38回北日本形成外科学会学術集会を、9月には、愛知医科大学形成外科 古川洋志教授が第19回日本血管腫血管奇形学会学術集会を、同月に、筑波大学形成外科 関堂 充教授が第11回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会を、そして、10月には、旭川医科大学形成外科 林 利彦教授が第105回北日本形成外科学会北海道地方会を、会長として主催されて大きな成功を得られました。本教室・同門会員にとって大きな誉でございます。

私がこれまでに多くの時間を費やし、関わってきました学会活動について、ここで簡単に振り返りますと、主な事項は下記となりますでしょうか？

- 【日本形成外科学会】若かりし40代前半より、数名の有志と共に、基本領域の学会として発展して行くために必要な2階建て専門医制度、診療ガイドライン制定、疾患データベース構築などを訴え、各委員会委員長として専門医試験全問題の見直し、学会ホームページの抜本的リニューアル、初めてのsubspecialityとなる皮膚腫瘍外科指導専門医制度の樹立、財務担当常任理事として、正会員年会費見直しによる財務状態の健全化
- 【日本創傷外科学会】初代編集長として、形成外科領域で初の試みとなる完全電子ジャーナル「創傷」の創刊、理事長として、形成外科領域で国内初となる英文学会機関誌：IJSWC (International Journal of Surgical Wound Care) の発刊
- 【日本頭蓋顎顔面外科学会】理事長として、代議員の拡充、学会広報事業の活性化、専門医制度の変革
- 【日本美容外科学会】初代総務委員として、これまでの各種会則、正会員資格、担当事務局契約、正会員年会費など
の見直し
- 【日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会】創立理事として、定款・各種細則などの作成

現在は、いくつかの学会の監事を拝任し、それぞれに多くの課題を抱えている各学会における次世代の勇躍なる舵取りを見守っております。

今後も、本教室ならびに各学会の発展のために先輩、同輩、後輩の多くの方々からの御指導、御協力を賜れば幸甚に存じます。

目次

巻頭言

- 同門会会長挨拶／野平久仁彦 [i]
教授挨拶／山本有平 [ii]

沿革 001

- 歴代教授 歴代同門会会長
同門会役員 教員スタッフ 002
主な主催全国学会 003

同門だより 004

- 写真／木村 中 005
端っこライド／川嶋邦裕 008
ドラゴンエフェクト？／村住昌彦 009
第11回日本乳房オンコプラスチック
サージャリー学会総会を主催して／関堂 充 011
“新生” MD conference／小山明彦 013
Love your mission passionately／古川洋志 014
インボウと言う勿れ／舟山恵美 015
理事就任のご挨拶／堀内勝己 017
愛車遍歴：中古車道楽からの脱却／林 利彦 018
伝説の真相～ムーンウォークでフェイドアウト～／村尾尚規 019
近況報告～実臨床の現場に立ち続ける心技体／皆川知広 021
Let's try 英会話 Let's try 国際学会発表／前田 拓 022
Vascular anomalies～未知なる大海／石川耕資 023
目まぐるしい2023年…／三浦隆洋 024
生後（産後）一カ月の闘病録／草島英梨香 025
恋しさと やさしさと 心強さと／石井浩子 027
旭川での3年／西尾卓哉 028
基地での経済活動／徐 東経 029
御礼～北海道での1年6カ月の国内留学の経験～／山形孝介 030
新入教室員挨拶／周 欣郁・的場苑子 031

年譜 032

- 教室年譜2023 033
第29回日本熱傷学会北海道地方会 034
学位・専門医取得祝賀会 034
同門会懇親会 035
スタートアップ イブニング、形成外科研修説明会 036
第5回WOUND BED PREPARATION研究会 037
教育研修施設会議2023 037
同門会忘年会 038
教室仕事納め会 039

教室年間活動 研究 040

- 北大形成外科カンファレンス 041
Manifesto 2023 045
業績一覧 047
UHS English Literature PDF Library 051
参加学会一覧 053
学位取得者および学位論文の要旨／三浦隆洋 059
／星野善允 061
大学院生研究室だより 063
北海道大学博士学位取得者一覧 064
研究費採択状況一覧 065
北成賞 067

教室年間活動 教育 068

- 講義・試験 069
臨床実習 070
臨床実習口演一覧 071
北海道大学形成外科専門研修プログラム 073
／形成外科医育成“グラウンドデザイン” 073
／PRS residency file 075
／専攻医教育セミナー 077
日本形成外科学会専門医取得者～10症例・論文 078
北大形成外科アカデミー 079
特定分野指導医・Subspecialty学会専門医取得者一覧 083

教室年間活動 診療 084	教室年間活動 レクリエーション 112
北海道大学形成外科専門研修プログラム施設群 085	スキー合宿 2023 113
専門研修基幹施設／北海道大学病院 086	The Party 2023 114
専門研修連携施設／市立札幌病院 088	ゴルフコンペ “北大形成外科マスターズ” 2023 115
時計台記念病院 090	ゴルフコンペ “北大形成外科THE OPEN” 2023 116
斗南病院 091	6時間リレーマラソン in 札幌ドーム 2023 117
手稲溪仁会病院 094	
北海道がんセンター 095	その他・一覧 118
苫小牧日翔病院 095	同門会構成員・教室スタッフ 119
函館中央病院 097	客員研究員・非常勤講師 120
市立函館病院 098	北海道大学病院 客員臨床教授 120
日鋼記念病院 099	A会員勤務施設一覧 121
帯広厚生病院 099	名誉会員勤務施設一覧・物故会員 122
北見赤十字病院 100	教育研修施設一覧 123
森山病院 101	学会役員・委員一覧 124
市立釧路総合病院 102	同門会規約・教室総則 125
青森新都市病院 103	
教育研修施設（常勤）／蘇春堂形成外科 103	
（非常勤）／桑園中央病院 104	
天使病院 105	
愛全病院 105	
千歳皮膚科形成外科クリニック 106	
北海道せき損センター 106	
岩見沢市立総合病院 107	
苫小牧市立病院 107	
旭川厚生病院 108	
釧路労災病院 108	
他形成外科専門研修プログラム 相互連携施設	
愛知医科大学病院 109	
旭川医科大学病院 111	

北海道大学医学部形成外科学教室：北大形成外科の歴史は、初代教授、現北海道大学名誉教授である大浦武彦に始まる。大浦は、当時日本で唯一の形成外科診療科があった東京警察病院の故大森清一先生のもとで形成外科を研修した後、1965（昭和40）年4月に北海道大学医学部皮膚科学教室三浦祐晶教授のご配慮により形成外科診療班をつくり、医学部附属病院皮膚科で形成外科の診療を開始した。

1978（昭和53）年6月には、その後の積極的な診療活動および当時の文部省、大蔵省への働きかけにより、北海道大学医学部附属病院に形成外科診療科が新設され、大浦が北海道大学医学部形成外科初代教授に選任された。教室定員は5であった。

1985（昭和60）年5月には、北海道大学医学部形成外科同門会が設立され、初代会長には浜本淳二が選出された。

1987（昭和62）年4月には、北海道大学医学部附属病院形成外科における臨床・研究両面にわたる実績が認められ、北海道大学医学部に形成外科学講座が新設された。

1995（平成7）年9月には、杉原平樹が第2代教授に就任し、同年12月より、新富芳尚が第2代同門会会長となった。

2005（平成17）年4月には、山本有平が第3代教授に就任した。

2007（平成19）年12月より、吉田哲憲が第3代同門会会長となった。

2008（平成20）年7月には、関堂 充が筑波大学形成外科教授に割愛された。

2017（平成29）年12月には、小山明彦が福島県立医科大学形成外科教授に割愛された。

2018（平成30）年4月には、古川洋志が愛知医科大学形成外科特任教授に割愛され、

2019（平成31）年4月に、愛知医科大学形成外科教授に就任した。

同年12月より、野平久仁彦が第4代同門会会長となった。

2021（令和3）年1月には、林 利彦が旭川医科大学形成外科教授に割愛された。

この間、北海道大学医学部形成外科は同門ならびに教室員と共に、さらなる飛翔を遂げ続けている。

教室創立年月日：1965（昭和40）年4月1日

歴代教授



初代教授 大浦武彦
(1931年-)
在任 1978年6月16日～1995年3月31日



第2代教授 杉原平樹
(1941年-2020年)
在任 1995年9月1日～2005年3月31日



第3代教授 山本有平
(1959年-)
在任 2005年4月1日～

歴代同門会会長



初代会長 浜本淳二
(1932年-2009年)
在任1985年5月1日～1995年11月30日



第2代会長 新富芳尚
(1943年-)
在任1995年12月1日～2007年11月30日



第3代会長 吉田哲憲
(1946年-)
在任 2007年12月1日～2019年12月14日



第4代会長 野平久仁彦
(1953年-)
在任 2019年12月15日～

北海道大学医学部形成外科同門会 役員

会 頭	山本有平
名誉会員	大浦武彦
同門会役員	
会 長	野平久仁彦
副会長	木村 中・川嶋邦裕・佐々木了
幹 事	國分一郎・竹野巨一・舟山恵美・堀内勝己・林 利彦
監 事	浅見謙二・松本敏明
最高顧問	新富芳尚
顧問	吉田哲憲

2023年12月2日現在

北海道大学大学院医学研究院形成外科学教室 教員スタッフ

教 授	山本有平
准教授・診療教授	舟山恵美
講 師・診療准教授	前田 拓
助 教・診療講師	石川耕資
助 教	三浦隆洋

2023年12月31日現在

主な主催全国学会

1980年

第1回国際熱傷学会アジア太平洋地区会議 (会長：大浦武彦)
 第6回日本熱傷学会総会 (会長：大浦武彦)

1986年

第29回日本形成外科学会学術集会 (会長：大浦武彦)

1990年

第8回日本臨床皮膚外科学会学術大会 (会長：松本敏明)

1991年

第14回日本美容外科学会総会・第54回学術集会 (会長：大浦武彦)
 第3回国際ティッシュエキスパンションシンポジウム (会長：大浦武彦)

1993年

第11回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (会長：大浦武彦)

1995年

第22回日本マイクロサージャリー学会 (会長：新富芳尚)

1998年

第16回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (会長：杉原平樹)

2000年

第43回日本形成外科学会総会・学術集会 (会長：杉原平樹)

2004年

第7回日韓国際形成外科学会 (会長：杉原平樹)
 第6回日本褥瘡学会学術集会 (会長：大浦武彦)

2007年

第30回日本美容外科学会総会・第100回学術集会 (会長：新富芳尚)

2009年

日本下肢救済・足病学会創立学術集会 (会長：大浦武彦)

2011年

第3回日本創傷外科学会総会・学術集会 (会長：山本有平)

2012年

第28回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (会長：山本有平)

2014年

第32回日本臨床皮膚外科学会学術大会 (会長：木村 中)

2015年

第3回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会 (会長：山本有平)

2017年

第40回日本美容外科学会総会・第130回学術集会 (会長：野平久仁彦)

2018年

第36回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (会長：山本有平)

2019年

第62回日本形成外科学会総会・学術集会 (会長：山本有平)

2021年

第48回日本マイクロサージャリー学会学術集会 (会長：関堂 充)

2022年

第45回日本美容外科学会総会・第145回学術集会 (会長：山本有平)
 第40回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会 (会長：南本俊之)

2023年

第11回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会 (会長：関堂 充)
 第19回日本血管腫血管奇形学会学術集会 (会長：古川洋志)

